

6 舍利講式 1巻（書跡・典籍）

げんおうがねんうるうしちがつつかかくのうしよやくがき
元応元年閏七月廿日覚能書写奥書

所有者 奈良市忍辱山町1273番地 圓成寺

卷子装 縦32.7cm 全長383.4cm 鎌倉時代（元応元年／1319）

舍利講式は京都・高山寺の明恵上人高弁が釈迦追慕のために撰述した四座講式（涅槃・羅漢・遺跡・舍利）の一つで、全体を3段に分け、釈迦の遺身である舍利尊崇の念を述べる。本品は奥書により建保3年（1215）に撰述され、翌年に高弟喜海が清書したものを元応元年（1319）に覚能が転写したことが知られる。明恵撰述の舍利講式は自筆本が現存せず、本品は年紀の明らかなものうち最古の1巻であることから、資料的価値が高い。

